

大慶油田における 新採油地区の開発 在大庆油田开发新油区

日 语 注 释 读 物



上海人民出版社

日 语 注 释 读 物

大慶油田における新採油地区の開発

在大庆油田开发新油区

上 海 人 民 出 版 社

本文选自《人民中国》1974 年第 9 期

日语注释读物

**大庆油田における新採油地区の開発
在大庆油田开发新油区**

丁 一 选 注

上海人民出版社出版
(上海绍兴路 5 号)

新华书店上海发行所发行 上海市印刷三厂印刷

开本 787×1092 1/32 印张 1 字数 16,000
1975 年 8 月第 1 版 1975 年 8 月第 1 次印刷

统一书号: 9171.68 定价: 0.09 元

たい けい ゆ でん しん さい ゆ ち く かい はつ 大慶油田における新採油地区の開発

せんきゆうひやくななじゅうさんねんいちがつ たいけいゆ でん とうい いんかい し どうかんぶ
一 九 七 三 年 一 月、大慶油田の党委員会の指導幹部
べ キン じゅうよう けつてい も かえ けつてい ないよう つた
が北京から重要な決定を持ち帰った。その決定の内容が伝
わると¹、油田じゅう²がわきたった。新しい採油地区を開
はつ せつ ひと ちくぐち はな あ
発することになった³、と人びとは口々に話し合った。

せい さい ゆ さん げつ さく井から採油まで三カ月

さいゆ ちく ち しつじようきよう あき
その採油地区の地質状況は、すでに明らかになってい
ゆ そう あつ あつりよく つよ さんしゆつりよう たか ひんしつ
た。油層が厚く、圧力が強く、産出量が高く、品質もすぐ
かい はつ に ねん かんせい よてい さんしゆつのうりよく
れている。開発は二年で完成の予定で、その産出能力は
せんきゆうひやくろくじゅうねん ろくじゅうごねん ご ねん かい はつ
一 九 六 〇 年から六 五 年まで五年かけて開発された
もとの大慶油田を上回る⁴。これは早さ⁵を必要とする⁶石
ゆ かい はつ さくせん じようきゆう けつてい つた に げつ
油開発の作戦である。上級の決定が伝えられてから二カ月
あた さいゆ ちく かい はつ あお じや しん
たたぬうちに⁷、新しい採油地区開発の青写真ができあが
どうじ そうじゆう くつ たい そうじつ
り、それと同時に数十の掘さく隊が数十キロ⁸はなれたも
さいゆ ちく げんば
との採油地区から現場へぞくぞくやってきた⁹。

ふゆ たいけい き おん れいか に さんじゆうど しんさいゆ
冬の大慶は、気温が零下二～三十度、はてしない新採油
ちく とうど さん あつ はくせつ
地区では凍土が三メートルの厚さとなり、白雪でおおわれ
ていた¹⁰。

油井の掘さくには約百四十の業種の助けが必要だ¹¹。
それだけの業種にたずさわる人びとが、いちどに荒野に入
ったのでは¹²、作業態勢をとる前に、まず住みつくことだ
けでも、かなり手間どってしまう¹³。数十のさく井隊が現
場で水を、電力を、泥水を、セメント……を待っている。
どれひとつ欠けてもさく井機は動かさないのだ。革命をス
トップさせるな、仕事をおくらすな、と労働者たちはいっ
た¹⁴。

送電のため、とりあえず二十キロにわたる高圧線を架設
した。ふつう十五日かかるのを、電気労働者は八時間でか
たづけた。朝にはなにひとつなかった¹⁵新採油地区南部の
原野に、午後には高さ八メートルの電柱四百本が立ち並
び、高圧電流をそれぞれのさく井隊へと送っていた¹⁶。

給水のための水道管は長さ十五キロにおよんだ¹⁷。さく
井指揮部で夜中の一時に会議をはじめ、三時に終り、五時
に要員を集めたが、七時には溶接工百四十余人と電気溶
接機二十三基が施工現場に到着した。それから三日目に
は、各さく井隊へ通じる水道が完成した。二十数日もの
くりあげ完遂である¹⁸。

さく井につかう掘さく泥水は、人間の血液とおなじよう
に大切であった。凍てついていた大地もすでに溶けはじめ、
地表は溶けたねんど質となり、その下は弾力性のある「ゴ
ム質」の層となっている。どろだめを掘るのにブルドーザ

一がつか使えず¹⁹、ツルハシがきかず²⁰、かといって²¹ハッパを
かけても、みず水ガメくらの穴があくだけだ²²。指揮部が困
っているところへさく井労働者が「皮はぎ土法」というの
をかんがだ考え出した²³。日光やたき火などで表層をひようそう乾かしなが
ら²⁴、つぎつぎにはぎとっていく²⁵やり方で、ひとつの油井
がほりあがると²⁶、つぎのさく井地点ではどろだめができ
あがっているというぐあい²⁷である。

ある日、ひすうねん数年ぶりといわれるおおふぶき大吹雪に襲われた²⁸。秒速
にじゅう二十メートルに達するおおかげ大風がワタの実ほどもあるゆきたま雪の玉²⁹
をまじえてああつ荒れくるい³⁰、あつ厚さ一メートル以上いじょうの雪が大草
げん原をおおった。

れいか零下四十度、よんじゅうさうど数度のげんかん厳寒のなかでようせつ風雪をついて³¹しごと仕事をつ
づけるさく井労働者の身を案じたせいらうどうしや指揮員たちは、ゆき雪だるま
のようになりながらかくさく井隊をまわり³²らうどうしや労働者たちを
みま見舞った。かれらがいちに一二〇二さく井隊についたときはすで
にしんや深夜だったが、そこではぜんたいいん全隊員がさく井機の上でたたか
いをつづけていた。よう容しゃなくふ吹きつけるれつふう烈風であし足をとられ
そうになる³³。ふ降りしきるおおゆき大雪にめ目もあけられない。まゆ眉が
しろ白くこう凍りつき、げまつ毛にもつららがついている。だが、か
れらはさく井機のせいどうかん制動桿をにおもにぎりしめ、ごじゅう重さ五十キロもあ
るおお大スパナをふりまわして、かいてん回転するビットをちていふかく地底深く食
いこませてゆく³⁴。たか高いやぐらはれつふう烈風にゆれ、たかにじゅうよん高さ二十四
メートルのちゅうかん中間テラスにいるらうどうしや労働者は、とぶねのまるで小舟に乗っ

たようにゆらゆらしている。それでも鉄の巨人のように、
数時間を立ち続け³⁵、落ち着きはらって操作をつづけている。
る。

労働者たちははやく作業をすすめ、坑井をつぎつぎと掘りあげた。

ひとつが掘りあがると³⁶、採油装置がとりつけられ、採油労働者がそれをりっぱに管理する。

英雄的な大慶の労働者は新採油地区の開発と建設の日程をつぎつぎに縮めていった。

採油予定日はもとの十月一日から八月一日に、さらに七月十八日までくりあげられた。

最初のさく井から採油までに要した期間はわずか九十
八日だった。これほど大きな採油地区の開発で、その年の
うちに相当高い生産水準をしめたのは、わが国石油の採
油史上でも空前のスピードである。

高压ガスキャップ油田を開発

新採油地区は油圧が高く、天然ガスの埋蔵量も多く、わ
が国ではじめて開発された高压ガスキャップ油田である。
油層ぜんたいが天然ガスの帽子をかぶっているほか、地表
から地下数百メートルの地層にかけて³⁷高压の天然ガス層
が幾層もあるのだ。

せんきゆうひやくななじゆうさんねんし がつ いちに ろくいち せいいたい めい う
一 九 七 三 年四月、一二六一さく井隊が命を受けて
しんさいゆう ち く ちゆうぶ くつ ぜんさいゆう ち く
新採油地区 中部で掘さくをはじめた。ここは全採油地区で
てんねん もつと しゆうちゆう もつと かつぱつ
も天然ガスが最も集中しており、最も活発なところから、
「トラの口」とよばれていた³⁸。掘さくをはじめてまもなく
ひ ある日、とつぜんゴーッというひびきとともに、黒い気
たい はしら こうせい すうじゆう たか た
体の柱が坑井から数十メートルの高さまで立ちのぼった。
ふんしゅつ ち か まいぞう てんねん みず
ガスの噴出である。地下に埋蔵されていた天然ガスと水が、
だい がんせき でいさ いつせい ふ あ
コブシ大の岩石や泥砂などをまじえて一斉に噴き上げ、そ
おと すう
の音は数キロのところまでとどろいた。すぐ噴出をとめな
い³⁹、高さ四十メートルのやぐらや現場のすべてが地底
の
に吞まれてしまう。

いつこく ゆる とき せいいたいし どういん けい
一刻のゆうよも許されないその時、さく井隊指導員の邢
だいきん せいき うえ かんぜん ば し
大鈞さんがさく井機の上にとびあがり、敢然とその場の指
き すうじゆうめい ろうどうしや てつじん おうしんき
揮をとった⁴⁰。数十名の労働者は「鉄人」といわれた王進喜
こ じん じ ぶん
(故人)のように、つぎつぎとどろだめにとびこみ、自分の
からだ でいすい たい ひと
体で泥水をかきまわした。この隊のほかの人たちや、あち
し えん ひと
こちから支援にかけつけた⁴¹人たちも、どろだめにセメン
じゆうしやうせき こな き ざい
トや重晶石の粉をいれたり、器材をはこんだり、さく井機
うえ ふんしゅつ さ ぎよう たす
の上にあがったりして⁴²噴出をおさえる作業を助けた。

さんじ かん お お ふんしゅつ
三時間の雄々しいたたかいで、ついに噴出はくいとめら
れた。

けいけんぶ そく こうせい ふんしゅつ お
経験不足から、つぎの坑井をほるときも噴出が起こった。
ふんしゅつ に ど せいいたい
ガスの噴出が二度もつづくと、さく井隊にとってはたいへ

んな重圧となる^{じゅうあつ}43。指導部ではこの一二六一さく井隊の人
たちに息抜き^{いきぬ}させるため、しばらくかれらを低圧坑井の掘
さくにまわそうとした。それをきいた邢大鈞^{けいだいきん}さんは、隊の
人^{ひと}たちを代表^{だいひょう}して指導部^{し どうぶ}にかけつけ、

「ガス噴出^{ふんしゅつ}が起こったから退却^{たいきやく}するというのでは、労働者^{ろうどうしや}
の心意気^{こころいき}もなにもあったものじゃない^{こうあつ}44。この高压ガス^{こうあつ}を
征服^{せいふく}しなければ、おれたちは死んでも死にきれない^し45」

といった。二回^{に かい}のガス噴出^{ふんしゅつ}でもこの隊^{たい}はくじけなかった
どころか、志気^{し き}はますますさかんになった^{しん}46。かれらは真
剣^{けん}に経験^{けいけん}をまとめ、緻密^{ち みつ}な種^{しゅじゅ}種の措置^{そ ち}をとって、わずか三
カ月^{げつ}で高压ガス^{こうあつ}を征服^{せいふく}した。

六十年代^{ろくじゅうねんだい}に大慶^{たいけい}の労働者階級^{ろうどうしやかいきゅう}は自力更生^{じりきこうせい}をむねとして⁴⁷
中 国^{ちゅうごく}における最初^{さいしよ}の大油田^{だいゆ でん}の高速^{こうそくど}、高水 準^{こうすいじゅん} 開発^{かいぱつ}の高峰^{こうほう}
をきわめた⁴⁸。七十年代^{ななじゅうねんだい}にかれらはまた、中国最初^{ちゅうごくさいしよ}の高压
ガス^{ゆ でん}キャップ油田^{こうそくど}の高速^{こうすいじゅん}、高水 準^{かいぱつ} 開発^{ちようじよう}の頂上^{ちようじよう}をきわめた
のである。

新採油地区^{しんさいゆ ち く}における油ガス^ゆの集・送系統^{しゅう そうけいとう}の建設^{けんせつ}を新たな
水準^{すいじゅん}でおこなうために、設計^{せつけい}・研究^{けんきゅう}者^{しや}たちは七十年代^{ななじゅうねんだい}の
水準^{すいじゅん}をそなえる地上施設^{ち じようし}の新しい工法^{せつ あたら}と流路系統^{こうろう りゅうろ}を設計^{けいとう}
した。

この新しいシステムによって、新採油地区^{しんさいゆ ち く}では長期^{ちようき}の安
定高生産^{ていこうせいさん}が確保^{かくほ}されたほか、大いに省力^{おお しようりよくか}化^{こんご}され、今後の油
田管理^{でんかんり}の自動化^{じ どうか}に好条件^{こうじようけん}が揃えられたことになる⁴⁹。い

ま、新採油地区の坑井元のまわりでは、労働者の姿は見られない。かれらは十五の油井を同時に操作するポンプ室で、採油管理にあたっている⁵⁰のである。

赤旗をうけつぐ若者たら

中国における採油事業の発展にともない、当時大慶油田の開発に参加した労働者たちは祖国各地の新油田に散らばり、その代りに⁵¹生氣はつらつとした大勢の若者たちが大慶にやってきた。この新採油地区の開発を担っているものは、十中七人までが⁵²若い人たちだ。毛主席がうちたてた大慶というこの赤旗は、かれらによってうけつがれ、大慶油田開発大作戦のかがやかしい伝統と、「鉄人」王進喜の精神は、かれらによってうけつき発揚されている⁵³。

たたえられるべき若い闘将⁵⁴は多くいるが、ここではそのうちの一人だけを紹介しよう。それは、新たな石油開発作戦の直前に一二〇五さく井隊々長に任命された高金頼さんだ。

二十六歳の高さんは、文化大革命がはじまってまもなく一二〇五さく井隊に入り、つねに「鉄人」老隊長の教えと援助をうけた。六十年代に、一二〇五さく井隊の初代隊長 王進喜さんはみんなを指揮して、重さ数十トンもあるさく井機を駅から現場まで人力輸送し、第一号油井を掘り

あるが、溶接のスピードと質の高さで開発作戦の前線に名をとどろかせている⁶⁴。……

大慶の若い世代は、自らすすんで⁶⁵世界観の改造につとめる戦士でもある。かれらはマルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンの著作および毛主席の著作を熱心に学び、古参労働者に虚心に学んで、自分をきびしく律し、世界観の改造につとめている。

あるとき、青年労働者の殷学生さんが、小組の人たちとともに五つの油井の採油装置(クリスマスツリー)を一日でとりつけるという、全採油地区での新記録をつくった。仕事をしておえて引きあげる⁶⁶とき、パイプの溶接カ所⁶⁷にちょっとまずいところがあるのを発見した。その程度のものならそのまま保温材料でつつんで地下に埋めればすむのだった⁶⁸。しかし殷さんは、「革命の事業にたいして一生涯責任をおわなければならない」といって、すでに日がくれていたにもかかわらず⁶⁹、数人の若者と電気溶接機のライトをつけてそのカ所を溶接しなおした⁷⁰。

大慶の新しい世代は、自覚的に革命をおこなうなかで、すくすくと成長しているのである。

その原動力となるものは……

大慶の新採油地区における開発作戦は新たなスピードを

かちとり、新たな高峰^{あら こうほう}をきわめ、新しい世代^{あたらし せ だい}をつちかい、きたえあげた^{しやうり}71。では、そうした勝利^{しやうり}はどのようにしてかちとられたのだろうか？

六十年代^{ろくじゅうねんだい}の開発作戦^{かい はつさくせん}の勝利^{しやうり}は、毛主席^{もうしゆせき}のプロレタリア革命^{かく}路線^{めい ろ せん}にたより、国内外^{こくないがい}の反動派^{はんどうは}の破壊行為^{は かいこうい}をうちやぶり、さまざまな困難^{こんなん}をのりこえてかちとられたものだった。こんどの新たな開発作戦^{あら かい はつさくせん}は、プロレタリア文化大革命^{ぶんか だいかくめい}が偉大^{い だい}な勝利^{しやうり}をおさめ^{ひ りんせいよううんどう}72、批林整風運動^{しんか はつてん}が深化発展^{しんか はつてん}しているときにおこなわれた。毛主席^{もうしゆせき}がみずからおこし、指導^{し どう}したプロレタリア文化大革命^{ぶんか だいかくめい}と批林整風運動^{ひ りんせいよううんどう}が新採油地区^{しんさいゆ ちく}の開発^{かい はつ}において大慶労働者^{たいけいろうどうしや}の巨大な動力^{きやうだい どうりよく}となったのである。

大慶党委員会^{たいけいとうい いんかい}の指導^{し どう}のもとに、労働者^{ろうどうしや}たちは昼は総動員^{ひる そうどういん}で開発作戦^{かい はつさくせん}に従事^{じゆうじ}し、夜はつきることのない憎しみ^{にく}をこめで^{りんびようひ}73林彪^{はん}批判^{でんとう}をおこなった。はじめのうちは電灯もなく、かれらはテントや組立式^{くみたてしき}の小屋^{こ や}のなかでロウソク^{ろうそく}をかこんで^{すわ}坐り、マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンの著作^{ちよさく}を、毛主席^{もうしゆせき}の著作^{ちよさく}を熱心^{ねつしん}に学び、林彪^{まな}の修正主義路線^{りんびよう しゆうせいしゆぎ ろ せん}をつつこんで批判^{ひ はん}した。そして、林彪^{りんびよう}が孔子^{こうし}にならって宣^{せん}揚^{よう}した「生まれながらにして之を知る^{これ し}74」の先験論^{せんけんろん}や「上智^{じやうち}下愚^{か ぐ}」の観念論^{かんねんろん}的歴史観^{てき れきかん}やかれが吹聴^{ふいちやう}した反動的な「天才^{てんさい}論^{ろん}」を、大慶^{たいけい}の労働者^{ろうどうしや}たちは十数年^{じゅうすうねん}にわたる大慶油田建設^{たいけいゆ でんけんせつ}の^{じつせん れい}実践^{じつせん}を例^{れい}にひきながら^{きゆうだん}75きびしく糾弾^{きゆうだん}した。労働者^{ろうどうしや}たちはこう語^{かた}った。——青空^{あおぞら}をいただき、大草原^{だいそうげん}をふまえ、大慶^{たいけい}

ゆ でん かいはいつ けんせつ りんびよう
油田を開発し建設したのはだれか。それはけっして林彪や
こうし てんさい せいじん
孔子といった⁷⁶「天才」や「聖人」ではない。それはわれわれ
たいけい ろうどうしやかいきゆう たいけいゆ でん かいはいつ けんせつ ち え ちから
大慶の労働者階級だ。大慶油田を開発し建設する知恵と力
りんびよう
はどこからきたのか？ それはけっして林彪がいうような
おや
「親ゆずり」⁷⁷ではない。それはわれわれがマルクス・レー
しゆぎ もうたくとうし そう じつせん なか
ニン主義、毛沢東思想にみちびかれ、実践の中でえたもの
だ——と⁷⁸。労働者たちは林彪反党集団にたいする憎し
ろうどうしや りんびようはんとうしゆうだん にく
みを、社会主義建設の大きな力にかえ⁷⁹、新開発作戦のピッ
しやかいしゆぎ けんせつ おお ちから しんかいはいつさくせん
チを大いに上げたのである。

ひ りんび こうとうそう たいけい ろうどうしや しよくいん かくめいせいしん
批林批孔闘争は、大慶の労働者・職員の革命精神をいっ
そうふるいたたせた⁸⁰。往年大慶油田の開発に寄与した古
さんかんぶ こんにちあら かいはいつさくせん わか
参幹部も、今日新たな開発作戦のなかで若さを取りもどし
てい⁸¹。われわれはどんだん年をとってゆく⁸²が、けいぞく
しとし
継続の精神はますますさかんでなければならない⁸³、と古
さんかんぶ さんかんぶ あたまた
参幹部はいっている。古参幹部のあるもの⁸⁴の頭にはすで
しらが み かくめいせんそう せんか
に白髪が見え、そのなかには革命戦争のころに戦火をくぐ
じんみん ち
り、人民のために血をながしてきたものもいるが、かれら
みずか し ごと
はいまもなお自らをなげうって仕事にいそしんでいる⁸⁵。
まつたん かずおお かんぶ あら かいはいつさくせん
末端の数多くの幹部は、新たな開発作戦のなかでいっそう
たいしゆう たいしゆう ところ ひる たいしゆう はたら
大衆にたより、大衆に心をくばり⁸⁶、昼は大衆とともに働
よる たいしゆう ね よ ろうどうしや
き、夜は大衆とおなじテントに寝る。夜がふけ、労働者た
ね ひと ひと
ちが寝しずまったころ、かれらはそっとおきだして一つ一
ろうどうしや
つテントをまわり、労働者のベッドをみてまわり、フトン

をかけなおしてやる。

たいけいゆ でん あら かいはずくせん おわ しんか
大慶油田の新たな開発作戦はまだ終わっていない。深化し
はつてん ひ りんひ こうとうそう しんさいゆ ちく
つつ発展している⁸⁷批林批孔闘争によって、新採油地区の
けんせつ
建設はいっそうピッチがあがっている。

注 釋

1. 決定的内容一传开。这里“と”表示一个动作、行为发生以后，紧接着出现另一个动作、行为，意为：一……以后，就……。☆電車がとまると、乗っていた人が降り始めた。
／电车一停以后，乘客就开始下车。
2. “油田じゅう”，在整个油田，在全油田。“じゅう”接在体言后面，意为：整个、全部。☆年じゅう／全年。☆世界じゅう／全世界。
3. 要开发新油区啦。“～こと十になった”意为：结果是……，决定……。这里是意译。☆彼が来年帰国することになると思います。／我想他明年就可以回国了。☆わたしは農村へ行くことになった。／结果决定我去农村。
4. “大慶油田を上回る”，超过大庆油田。“上回る”，超过。它是自动词，但用“を”表示超过的对象。
5. “早さ”，快。由形容词“早い”变来的名词，“さ”表示程度。☆厚い→厚さ／厚度。☆深い→深さ／深度。

6. “～を必要とする”，需要……。
7. “二カ月たたぬうちに”，还不到两个月。“ぬ”，表示否定的助动词，一般用于书面语。“たたぬ”，等于说“たたない”。“～うちに”，在……的时候。☆雨^{あめ}が降らないうちに^ふはやく行きましょう。／趁还没下雨，我们快去吧。
8. “キロ”，原意是千倍的意思，常作为キロメートル（公里）、キログラム（公斤）、キロワット（瓩）的省略形式，这里指公里。
9. “やってくる”→“やってきた”／来了。系习惯语。
10. 白雪茫茫。“おおう”→“おおわれる”→“おおわれていた”／被覆盖着。
11. 钻井，要有大约一百四十个工种为它服务。“には”表示目的，与“必要だ”相关联。
12. 那么多工种的队伍一下开进现场，这样……。这里“それだけ”不能译为“仅仅那么些”，而应理解为“那么多”，即指“一百四十”。“～にたずさわる”，从事于……，参加……。“の”，形式体言。“では”表示方式，意为：……的话。
13. 就是安顿下来也要花不少时间。这里的“だけ”应理解为“仅仅”。“でも”，即使。“手間どる”，费时。“～て+しまう”表示动作、行为的完成、完了，或表示不象所希望的那样顺利，这里是后一种用法。☆ひと^{ほん}と^よばんでこの本を読ん^よでしまった。（表示完了）／一个晚上就把这本书读完了。☆どんなことを、どう^か書いてよいか、迷^{まよ}ってしまった。

(表示不象所希望的那样顺利)／写什么？怎么写？真拿不定主意。

14. 工人们说，革命不能停，工作不能等。“ストップする”（自动词）→“ストップさせる”／使……停下。自动词变成使役态后，可当作他动词使用。☆彼^{かれ}が来^くる（他来）→彼をこさせる（让他来）。☆大衆^{たいしゅう}が立^たち上^あがった（群众起来了）→大衆を立^{たいしゅう}ち上^あがらせた（把群众发动起来了）。“な”，接在动词或助动词终止形后面，表示禁止做某事。☆動^{うご}くな。／不许动。

15. “なにひとつなかった”，什么也没有，光秃秃的。修饰“原野”。

16. “さく井隊へと送っていた”，迅速送往井队。“へと”，表示有力地向前进的样子。☆前^{まえ}へ前^{まえ}へと進^{すす}め。／向前，向前。

17. 供水的自来水管长达十五公里。“～に十およぶ”，达到……。

18. 抢前了二十多天。“くりあげ完遂”，提前完成。“も”，表示强调。☆二十数日のくりあげ完遂（提前二十几天完成）→二十数日ものくりあげ完遂（竟提前二十几天完成）。

19. 挖泥浆池，机械用不上。“のに”，形式体言“の”和格助词“に”的重叠。“ブルドーザー”，原意为推土机。“使う”→“使える”／能用。“使えず”的“ず”表示否定中顿。